

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等

背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
令和5年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、授業時間以外で学校図書館や地域の図書館に「全く行かない」割合が高く（小学校：38.0％、中学校：53.7％）、図書に触れる機会が少なくなっている。	学校支援コーディネーターによるコーディネートのもと、学校図書館に関わるボランティアを増やし、朝の時間や放課後の時間を活用して開放を行う。	朝の時間や放課後の時間を活用した図書館開放の機会を増やすとともに、その周知にも注力する。 また、図書担当教員、学校司書、学校支援コーディネーター、ボランティアが連携・協働しながら、児童生徒にとって居心地の良い学校図書館を作り上げていく。	学校の授業以外で学校図書館や地域の図書館を利用する児童生徒が増える。	市独自のアンケート調査 対象：小学校等4年から中学校等3年生まで 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館（それぞれ電子図書館をふくむ）に月一回以上行くと回答する児童生徒の割合	小：40.8％以上 中：27.6％以上	小：39.4％ 中：23.8％	学校図書館の開放時間の確保について、これまで取組みを進めてきたが、児童生徒の読書習慣の定着においては、効果的な取り組みには至っていない状況である。 常時開放を実現することで、児童生徒が本を読みたいと思った時に、自由に本に触れられる機会を創出するとともに、環境整備を通して居心地のいい空間を提供できるよう、市教委、図書担当教員、学校司書、学校支援コーディネーター、ボランティアが連携・協働する。